

<週報No.2, 869> 2, 980 回例会

2019年2月1日(金)

◆会長/古屋 了 ◆幹事/加藤 明博

◆司会=川村 総一郎副SAA

◆ゲストビジター=本日はいらっしゃいません

◆出席報告

本 日	77.27%	12名欠席
前回訂正	77.78%	11名欠席

◆ラッキーナンバー=No.24 宮坂康弘君

◆ニコニコボックス=●古屋了君、加藤明博君=本日のクラブフォーラムは高橋会員の卓話です宜しくお願いします。●高橋千昭君=本日の卓話お世話になります。●増澤洋太郎君=プロ野球もチャンピオンしました。私の愛するロッテは昨年は5位、今年はさうとう期待できそうです。●竹上幸浩君=本日プログラム委員会の担当例会です。新入会員卓話を高橋会員にお願いしています。

●石田孝一君=高橋さん卓話ありがとうございます。●北川和彦君=先週休んで申し訳ありません。寒い日が続きます。頑張りましょう。●宮坂康弘君=ラッキーナンバーにあたって。

◆会長告知・古屋了会長=先週は河西委員長に職業奉仕についての卓話をいただきました。胸襟を開かれ、材料の命、職人の命を生かす魂の継承についてのお話を感じ入りました。2月は平和と紛争予防/紛争解決月間です。

先月26日、全豪オープン女子シングルス決勝を制したのは大坂なおみ選手でした。その優勝には日本だけでなくハイチも喜びに沸いているとのこと。大坂選手は大阪生まれ、アメリカ育ちですが、父上は中米ハイチの出身。日米の二つの国籍を持つ大坂選手が今回選択した国籍は日本でした。しかしながら、彼女の天真爛漫な振る舞いには、国を代表する気負いというようなものは感じられません。彼女は普段から「私は自分のアイデンティティーについて深く考えていません。私は私です」と言っています。

一方、日本は「均質的な社会」といわれていて、「日本人」というと皆が同じような髪や肌の色・言語であるのが「当たり前」になりがちです。けれどその、「当

り前」が時に、民族・文化の異なる人との間に不要な「壁」をつくり、誤解や偏見を生んではいけるようにも思います。人間は一人ひとり個性が異なる生き物です。であるからこそ互いにその差異にこだわり、自分とは違う他者の生きる背景を理解しようとする手間を省いて、思考停止してしまうことがあります。こうして他者を、「自分には理解しがたい人」として差別しているうちは紛争の解決どころではありません。人間が他者の存在理由を尊重することなく、それぞれ自分の周辺の平和しか見えていないとするならば、国の争いや職場のハラスメント、子どものいじめ等もなくなりません。

第二次大戦への反省から、万人が一人残らずかけがえのない人間として尊重される世界を目指して、1948年採択された世界人権宣言は昨年12月10日で70周年を迎えました。起草委員長を務めたのはフランクリン・ルーズベルト夫人のエレノア・ルーズベルト。その回想によると、起草委員会では欧米の一元論に偏ろうとしている場面で、「儒教に学べ」と東洋の多元論的発想でバランスをとろうとしたのは、中国代表の張彭春(じゃんほうしゅん)だったそうです。

平和、紛争予防、紛争解決と申しましても、畢竟、私たち人間ひとり一人の人間同士の間には芽生える「差異の認識」を包み込んでゆく以外にないことは、皆さんご存知の通りかと思えます。

今回は、戦争体験を背景に、「人間・戦争・平和・環境」をテーマに人生を全うされたロータリーの先輩、藤原正男さんのことを中心にお話したいと思います。

◆幹事報告・加藤明博幹事=①本日のクラブフォーラムは高橋会員の卓話です。宜しくお願いします。

②来週の例会はガバナー補佐訪問です。皆さん出席してください。③先週に引き続きポリオ撲滅キャンペーンの募金に協力をお願いします。

●新入会員卓話・高橋千昭会員=私の卓話のテーマは「人生いろいろ」です。



スピードスケートの関係もあり体育大学へ進学しました。大学時代の寮では、朝6時に太鼓が連打され、鳴り終わ

るまでに各階廊下に二列横隊に整列し点呼を行い、その後掃除。夜も点呼、清掃という生活でした。スケート部では体罰（愛のむち）は日常的でした。

大学を卒業後、県外ですが高校の保健体育の教員として平成元年から同28年末まで約28年間勤務し、うち高校勤務は5校19年、その他の9年は行政関係の仕事を行いました。

学校では今の時期に次年度の校務分掌（仕事の割り振り）を行うのですが、教頭が各先生に依頼に回ります。教職員が90名ほどいる高校勤務の時に、私もある仕事について教頭に「体育の教員はなんでもできるから」と言われてお願いされました。若気の至りで、「他の先生方に聞いてもらって、やっていただければ来てください。」と話したところ、高遠町出身の校長に呼ばれ、「長野県人、特に諏訪人の気質は理屈っぽいから気をつけろ」と暖かい言葉をいただきました。3年後町の教育委員会に異動し、その後3年間高校に勤務し、その後県の生涯スポーツの関係の仕事に就き、その後また高校で勤務しました。

体が動かなくなったら体育の教員ではないとの思いから、毎日授業があれば生徒と一緒に走って、部活でも生徒と同じメニューをこなし、多い時で1日20kmを毎日走っていた時期もありました。

この学校に勤務していた時に「東日本大震災」がおきました。職員室の机の上の物やロッカーは全て落ち横倒しになり、揺れが長く立っていることがやっとの状態でした

翌日原子力発電所の爆発が起き、夕方からは住民の方が高校の体育館へ避難してきました。約一か月半体育館での生活をされていました

この高校の時に管理職試験を受け、2回目の挑戦で合格しました。

この教頭の経験から、今時は何が普通なのかわからない状況だと実感します。その例ですが、一つ目は、女子生徒の保護者が、娘が目をコンプレックスに感じ、学校に行けないと言うので二重瞼の手術をするから一週間学校を休ませてくれと言ってきました。長期休業中にやってくれと言ったのですが、聞き入れてもらえませんでした。

二つ目は、生徒数名が同級生宅でタバコを吸って酒を飲み、その酒も同級生のお兄さんに買いかせて、お金

を払わないことがあって相談を受けました。一人の父親は、うちの子はやっていない、生徒手帳に酒やタバコをやるなどは書いてない、子供たちから聞いた書面をもらいたいと言ってきました。

生徒から聴取した書面を渡すことはできませんので、県の情報公開条例に基づく手順書を渡したことがありました。

その頃スピードスケートで国体に出場しました。教頭職でスケートの国体に出場した人は今も過去にもいないと思いますが、レース中のアナウンスで「教頭の高橋君」というアナウンスが流れ会場から爆笑されました。

その後県のスポーツ行政と教員採用試験の保健体育の問題取りまとめ役などを行い、行政に無駄があることが目につき、何とかしなければと思っていた矢先、いろいろありまして、昨年1月より諏訪に帰ることになりました。今までの職場は非常に閉鎖的なところがあったので、ロータリークラブで様々な業種の方の話の聞けることは、非常に良い機会だと感じています。皆様方にご指導いただきながら、人生いろいろ、いろんな経験を重ねていきたいと思っております。

◆今後の例会日程

2月8日	金	クラブフォーラム（ガバナー補佐訪問）
2月15日	金	準法定休日
2月22日	金	クラブフォーラム（国際奉仕委員会）
3月1日	金	クラブフォーラム（諏訪市長、年頭所感）

執筆担当 北川和彦